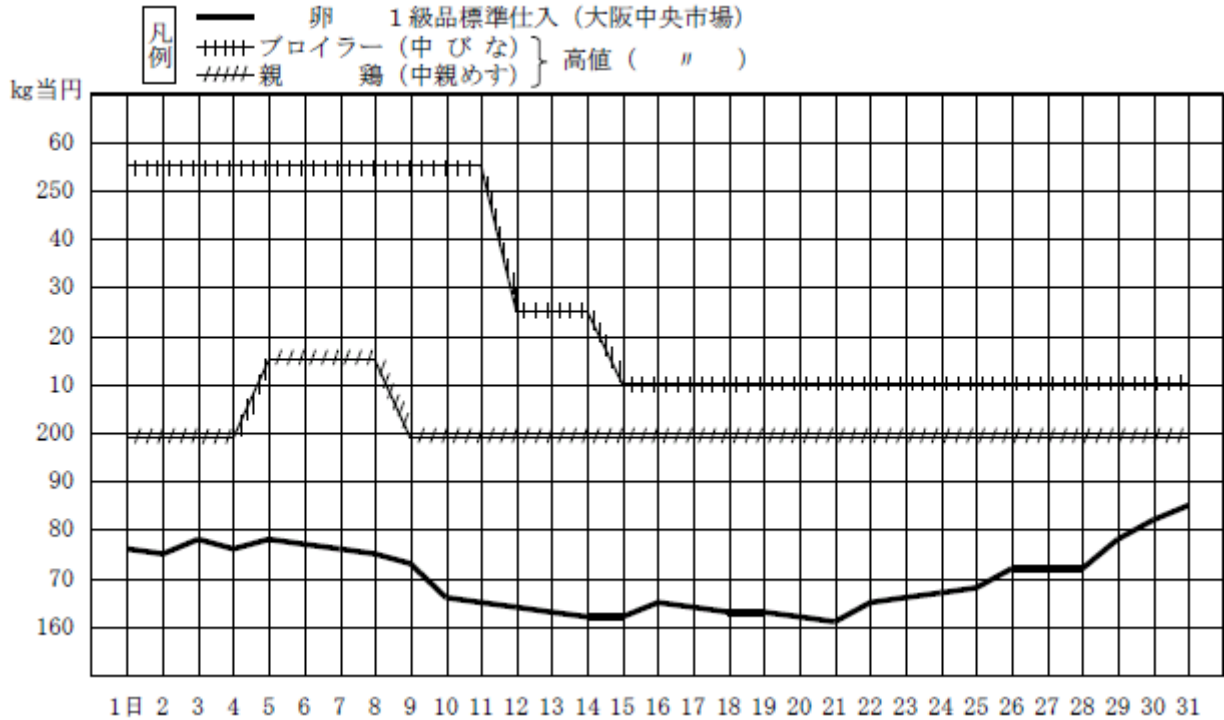


経済市況

鶏卵鶏肉市況月報 (35年3月) 一大阪経済事務所一

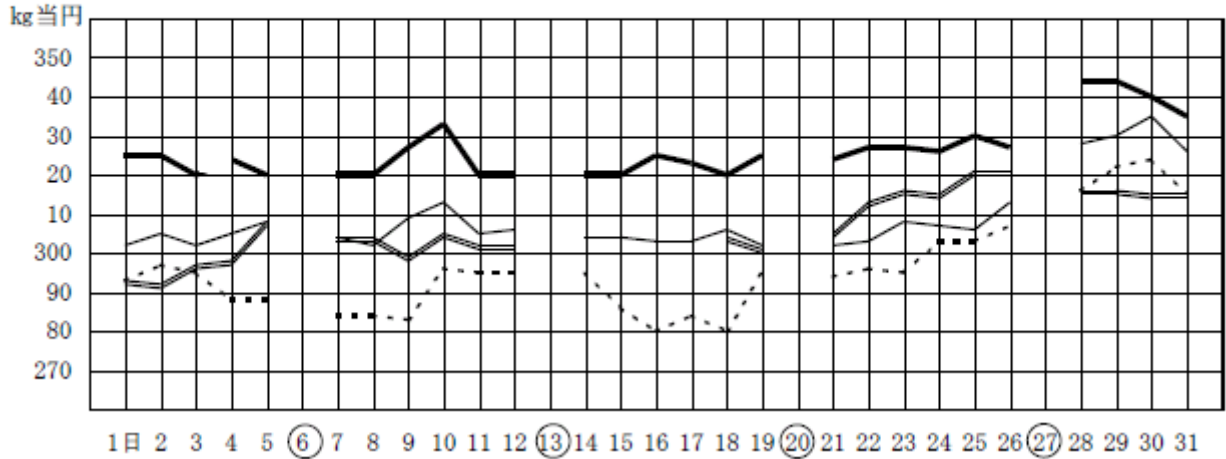
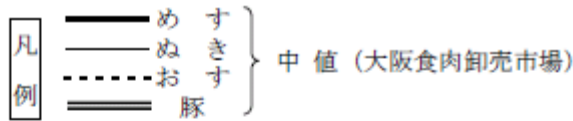


平均価格 (kg当)	35年3月		34年3月		阪神地区入荷推定数量	共同出荷実績						
	卵	円	円	卵		kg	ブロイラー	羽	親鶏	羽		
卵	170	170	167	167	岡山	1,100,000	7,000	25,000	経済連	488,000	—	—
ブロイラー	227	227	219	219	香川	800,000	24,000	50,000	西大寺	9,500	—	—
親鶏	202	202	160	160	大阪	1,500,000	38,000	80,000	美作	30,000	—	—
					その他	1,500,000	60,000	110,000	養鶏加工連	—	3,500	—
					計	4,900,000	129,000	265,000	計	527,500	3,500	—

3月は市場への出廻り量が多くなり、年間を通じて最も卵価の安い時期であるが、月間平均相場はkg170円で前年同期よりは3月高の市況であった。中旬には160円と言う安値があったが、これが末端の消費を促進し、加えてマヨネーズ向の大口需要が急増したため下旬にはじり高の商状を辿って、185円がらみとなって4月に入った。香港輸出は引き続いて実施されており3月中に神戸港から積出された鶏卵は3.7万ケースで、2月より5,000ケース増であった。4月に入って予想外に相場は良いが、こうした高値(185円がらみ)には早晚消費がついて行けなくなるので、長続きはせず中旬から下旬にかけては170~165円と相場は下げてください。

食鳥の3月相場は堅調であった。即ち若鶏の中びなで月間平均kg227円で、前年同期より8円親鶏の中親めすでkg202円で42円高であった。若鶏は中旬過ぎから出廻りが多くなったため、月始めのkg225円から40円下げの215円と急落した。一方親鶏は月間を通じて相場は殆んど動かず依然出廻りが少なかった。しかし4月に入ってからはやや入荷が増えているので15円方下押しして来た。若鶏も入荷が多くなっておるので、相場も3月末よりは更に20円方の下げを見せている。これからはよいよ出廻りが多くなる時期となるので気配は弱い各産地の警戒心がかなり強いので昨年のような暴落傾向はない。

肉畜市況月報
(35年3月) —大阪経済事務所—



	団体名	頭数	平均単価	枝肉量	売上金額				摘要
					枝肉	原皮	内ぞう	計	
共同出荷実績	共 県畜連	めす 2 ぬき 12 豚 27	円 319 313 312	kg 418.0 2,623.7 1,682.8	円 133,550 821,630 525,120	円 9,000 54,000 —	円 6,680 41,970 13,450	円 149,230 917,600 538,570	大阪中央畜産K.K
	同 経済連	ぬき 1 豚 37	317 312	254.4 2,712.1	80,644 813,986	4,500 —	4,070 21,694	89,214 835,680	徳島ハムK.K
	出 苦田畜連	めす 6 おす 4 ぬき 1	288 295 322	1,502.4 968.5 240.0	432,350 285,280 77,280	27,000 18,000 4,500	24,030 15,490 3,840	483,380 318,770 85,620	大阪畜産K.K
	荷 英田畜連	めす 1 ぬき 1	309 306	214.0 236.1	66,120 72,240	4,500 4,500	3,420 3,770	74,040 80,510	〃
	実 真庭畜連	めす 6	306	1,167.6	357,260	27,000	18,680	402,940	〃
	績 高梁畜連	ぬき 13	326	3,127.3	1,018,830	58,500	53,030	1,130,360	〃
	江見農協	豚 2	308	88.1	27,140	—	700	34,140	〃
	高梁〃	豚 10	304	631.1	191,850	—	5,040	196,890	大阪中央畜産K.K
	豊国〃	豚 7	308	541.3	166,970	—	4,330	171,300	〃
	中物平均価格		35年3月	34年3月	と畜頭数(大阪市と場)	牛	4,081		
めす		327円	302円	仔牛		659			
ぬき		309	269	豚		7,019			
おす		295	250	馬		63			
豚		306	175	めん羊		22			

3月の出廻りは2月より牛において約200頭、豚において約400頭増で、上、中旬は商況に活気なく低調であった。下旬にいたってやや売行が好転したため月末の相場は一段と水準を高めた。最近各地のぬき牛の肥育が盛んな反面おす牛の品不足が稀少価値をもたらして、おすはない物高の様相を呈している。これは結局小売店ではめすやぬきの脂肪の余剤になやんで

おり、脂肪の少ないおすに買気を出しているため、こうしたおす高の現象がみられるようになったものである。4月の見透しは出廻り需要とも3月と大差ないと見られ、現在、牛、豚ともに相場は行きつく処まで来た感じで、今以上上げる材料もないことからまずまず保合いの商状とみられる。